お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

・本機を操作するときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた背負式動力噴霧機で安全かつ能率的な作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書はWJR2520を中心に説明してあります。

目次

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう‥4
安全ラベル ‥‥‥

定期点検を行いましょう……38

点検・整備のしかた……39
エンジン　オイルの交換 ……39
エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃 ……41
点火プラグの点検・調整・交換 ……43
燃料タンクの清掃 ……45
燃料フィルタの清掃 ……46
燃料チューブの点検 ……47
冷却フィンの点検・清掃 ……47
スロットル　ケーブルの調整 ……48
ノズルの分解・点検 ……49

長期間使用しないときの手入れ……50

故障のときは……53

主要諸元……54

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 本機は農薬の噴霧散布または散水用として使用してください。定められた用途以外に使うと、重大な薬害事故を起こしたり、本機を破損する危険があります。
- 本機は 5 ℃～40℃の環境で使用してください。
  また、凍結が残っている場合は使用しないでください。
- 本機の改造は行わないでください。故障の原因となるばかりでなく思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。また作業中に故障するとタンク内に残った薬剤で薬害を引き起こすことがあります。
- 本機は薬液タンクが満タン状態で重量物です。背負うときは腰を痛めないように十分注意してください。薬液満タン状態では、本機を水平なテーブルや台に一旦置いてから、背負ってください。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給し、燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 建物の中、ビニール　ハウスの中、壁に囲まれた所など換気の悪い場所ではエンジンを運転しないでください。酸素不足や有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- 急傾斜地では本機を使用しないでください。急傾斜地はすべりやすく、転倒するおそれがあります。

●農薬の取扱い

農薬など薬剤の取扱いは、薬剤の製造者および販売者の指示に従ってください。また法規および条例に従ってください。

薬剤のラベル、説明書、注意事項を良く読んで、正しく使用してください。万一に備え薬剤の毒性や応急処置の方法を確認しておいてください。注意事項などを守らないと、重大な薬害事故を引き起こす原因になります。

- 次のような人は薬剤の散布をしたり、手伝ったりしないでください。薬剤の影響を受け、健康を害するおそれがあります。
  - ・肝臓や腎臓に障害のある人　・特異体質の人
  - ・薬物に敏感な人　・病弱、病後の人　・ケガをしている人
  - ・生理時の女性　・妊娠中の人
- 農薬の散布作業や作業を補助する人は、農薬を吸入したり、直接皮膚に触れないように次の保護具を着用してください。
  - ・防護衣(防水性のある帽子、長袖、長ズボンおよびゴム手袋、ゴム長靴)
  - ・防護メガネ　・防護マスク

農薬が皮膚に付いたり、吸入すると中毒を起こすことがあります。

警告

- 農薬を散布するほ場はあらかじめ防除計画をたて、前もって除草作業などを済ませ、防除直後のほ場に入らないようにしてください。薬剤により健康を害するおそれがあります。
- 同じ人が長時間あるいは連日散布作業を行わないでください。作業は適度に休憩をとりながら行ってください。疲れた状態では、健康に悪影響を受けやすくなります。
- 薬剤の散布は日中の暑い時や、風の強い時を避けてください。また人通りのある場所、時間(子供の登下校時など)に散布することを避けてください。日差しの強い時に散布作業を行うと、散布した薬液が濃縮されて、薬害を生じるおそれがあります。風の強い時は、薬剤が流され散布地以外への汚染や、人、家畜、養蜂、蚕、水生動物などに薬害を生じる事があります。
- 散布作業中は飲酒、飲食、喫煙をしないでください。休憩時や作業の後に食事、喫煙をする場合は、必ず石けんで手や顔を良く洗い、うがいをしてからにしてください。薬剤が体内に入り健康に悪影響を与えます。
- 飲食物を農薬や本機と同じ容器で運搬したり保管しないでください。飲食物が汚染され、薬害事故を引き起こします。
- 残った薬剤は、密封、密栓し、食品や飼料とは区別してカギのかかる農薬保管箱に保管してください。保管が不完全だと重大な薬害事故を引き起こします。

警告

- 使用した機具は、子供や家畜の出入りできない、鍵のかかる場所に保管してください。
  保管が不完全だと子供が触れたり家畜がなめたりして薬害を引き起こします。
- 薬剤の中で、火気厳禁の表示がある物(硫黄、乳剤、油剤など)を火気(たき火、タバコの火など)の近くで使用しないでください。
  保管場所も火の気のない、涼しい場所を選んでください。火災事故の原因になります。
- 使用した機具は良く洗浄してください。洗浄に使った水は、薬害の生じない、自分の管理する非農耕地にすててください。
  機具の洗浄が不完全だと、次に使用するとき別種の薬剤を使用すると、機具に残った薬剤が反応し思わぬ薬害の原因になります。
- 薬剤の空き袋や段ボール箱、プラスティック容器は、薬剤の製造者および販売者の指示に従い処理してください。不適切な処理は、薬害を引き起こす原因になります。
- 作業が終了したら、入浴して、石けんで体を良く洗ってください。
  着用した衣服類は全部取り替え洗濯してください。作業に使った衣服を翌日また着用すると、薬剤の影響を受けて体調が悪くなることがあります。

●運転中

- 運転中や停止直後のエンジンは高温になっています。人や動物を近づけないでください。触れるとやけどします。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買あげ販売店にご連絡ください。

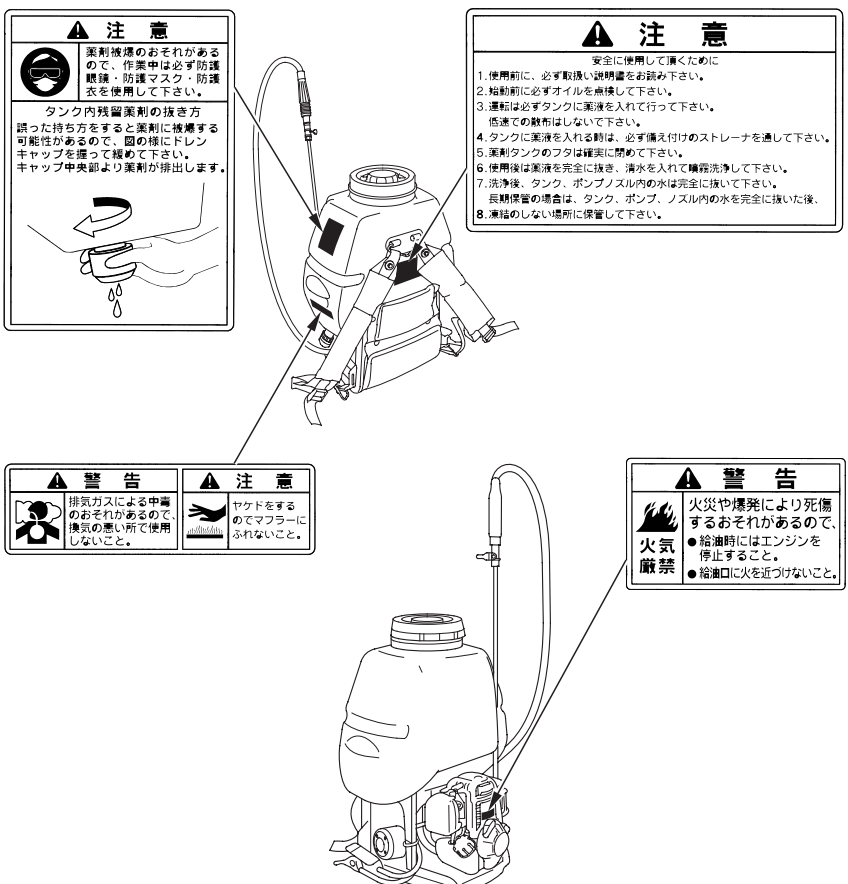
警告

●作業が終ったら

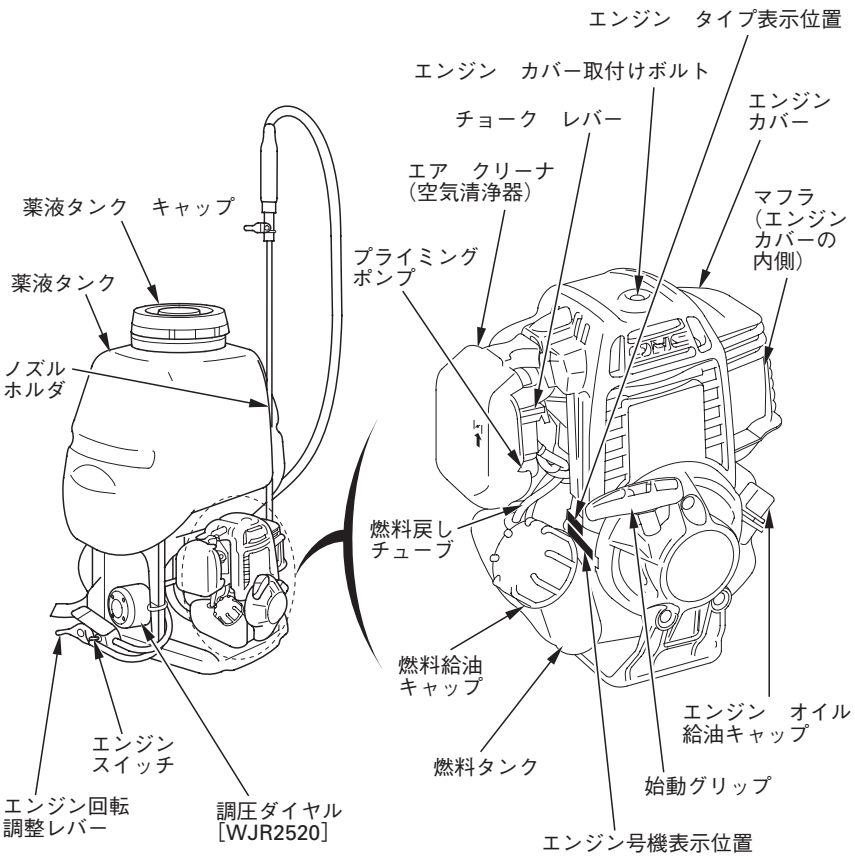
- 点検･整備や清掃するときは必ずエンジンを停止してください。
  また誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを“停止”の位置にし、プラグ　キャップを取外してください。
  予期しないときにエンジンが始動してケガをするおそれがあります。

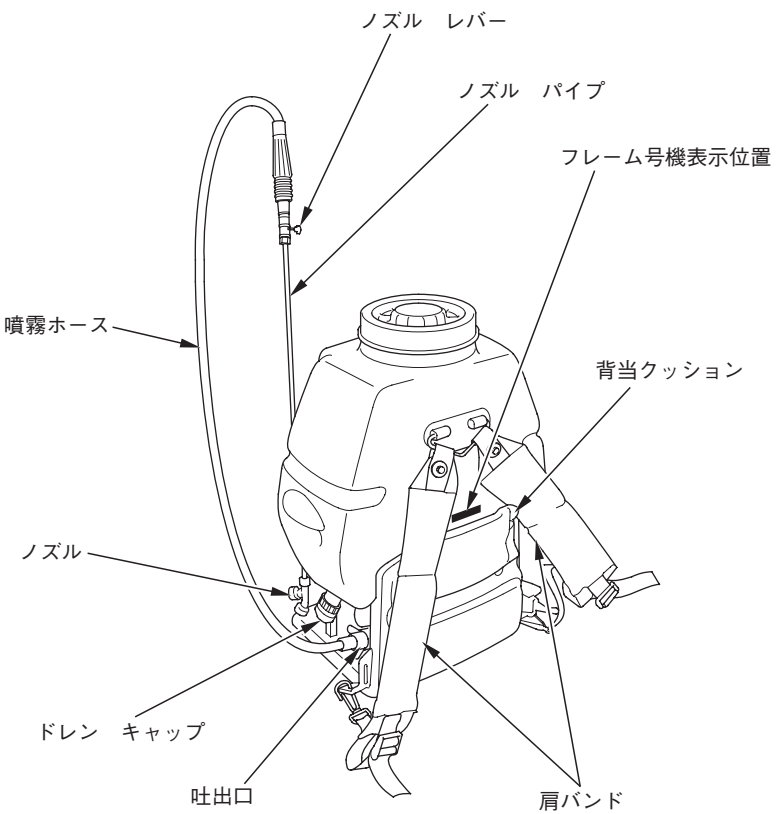
●安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



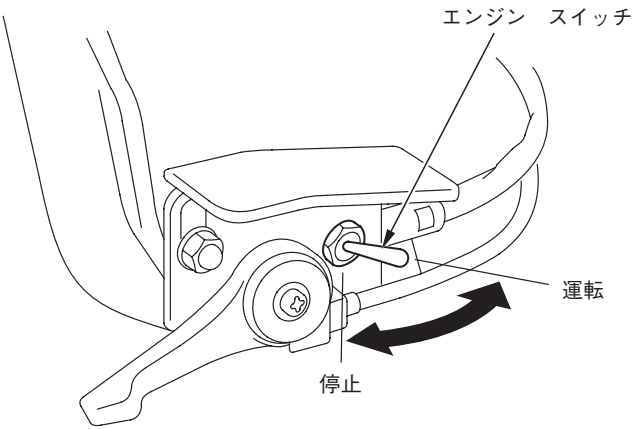
各部の名称と取扱いをおぼえましょう




ノズル　レバー
ノズル　パイプ
フレーム号機表示位置
噴霧ホース
背当クッション
ノズル
ドレン　キャップ
吐出口
肩バンド

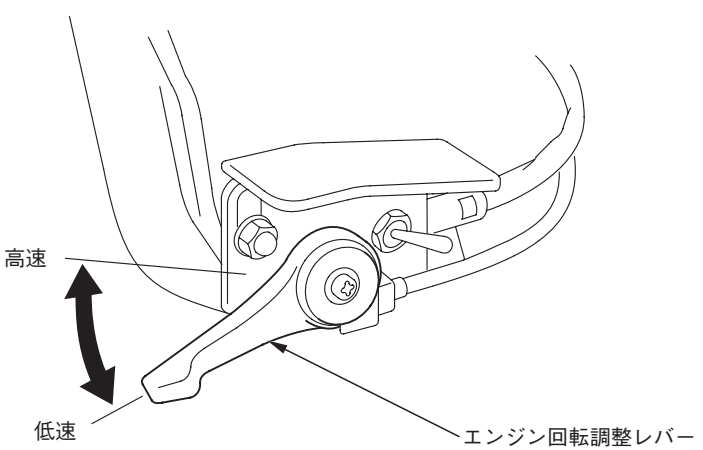
エンジン　スイッチ

エンジンを運転、停止させるときに操作します。



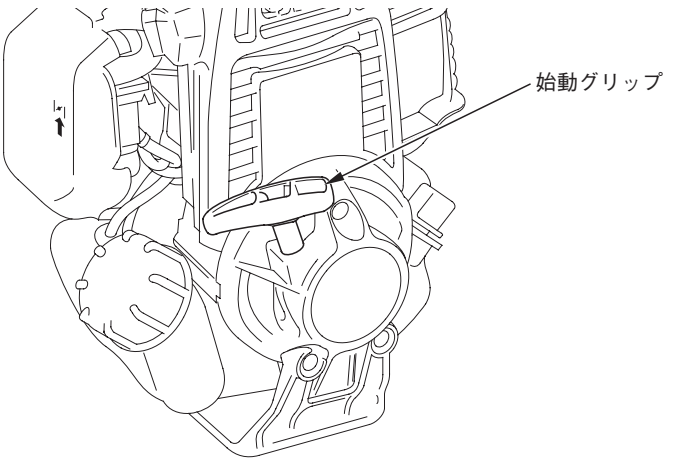
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。



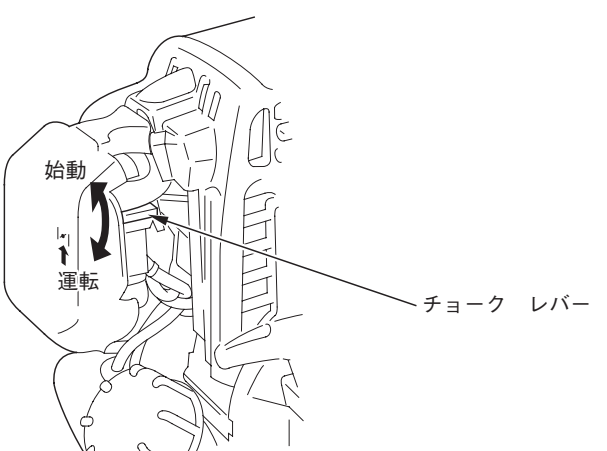
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



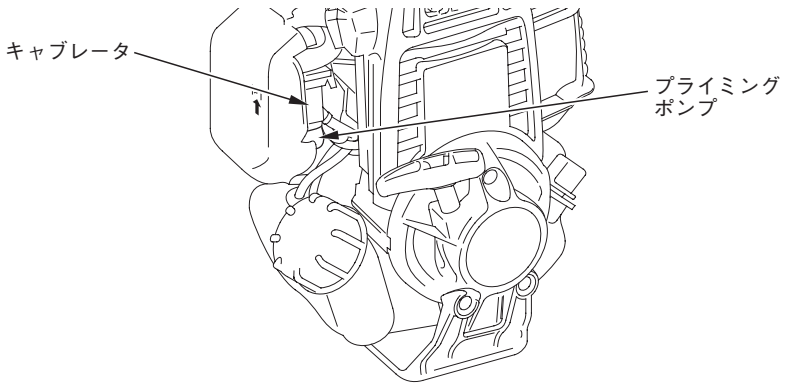
チョーク　レバー

始動時にエンジンが冷えている場合にチョーク　レバーを**“始動”**の位置にします。



プライミング　ポンプ

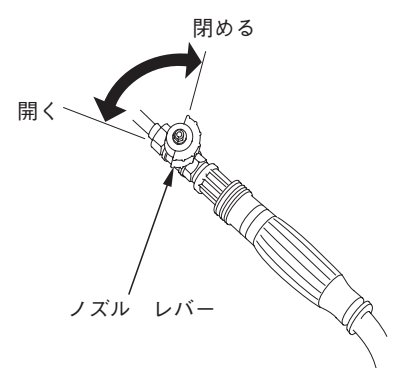
エンジンを始動するときに操作します。数回押すことによって、キャブレータ内に燃料を送り込みます。燃料戻しチューブ(透明なチューブ)内に燃料の流れが確認できれば、キャブレータ内に適量の燃料が蓄えられています。



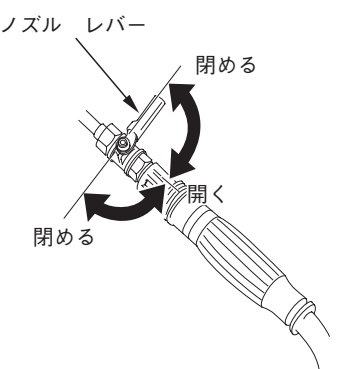
ノズル　レバー

ノズル　レバーを開くと噴霧が始まり、閉めると止まります。

WJR1015:

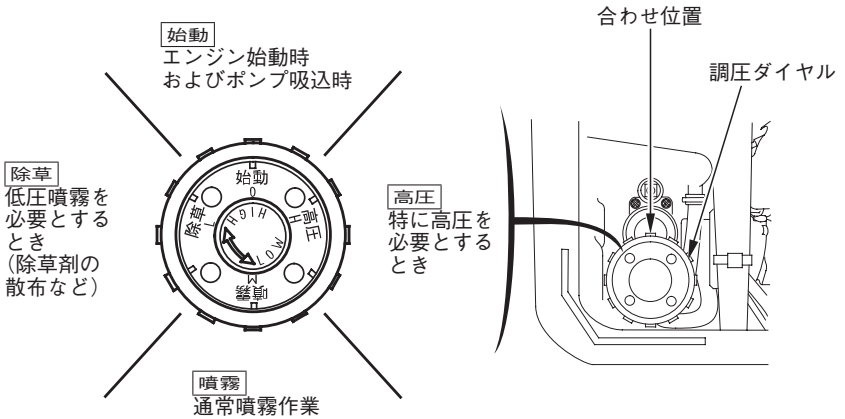


WJR1515:
WJR2520:



調圧ダイヤル（WJR2520）

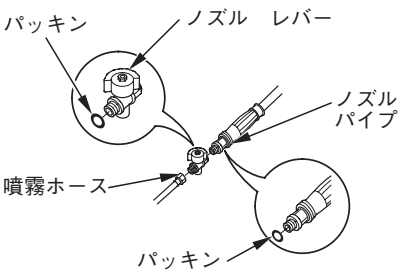
噴霧圧力／噴霧量を調整するときに操作します。調圧ダイヤルを回転させて圧力を調整します。



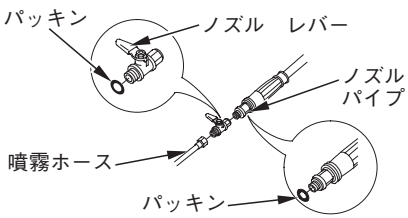
ノズルおよびノズル　パイプの組立て

1. ノズル　パイプ、ノズル　レバー、噴霧ホースを組付けます。

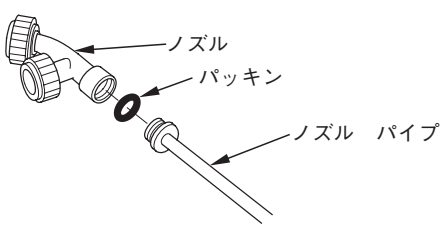
WJR1015:



WJR1515:
WJR2520:



2. ノズル　パイプにノズルを取付けます。

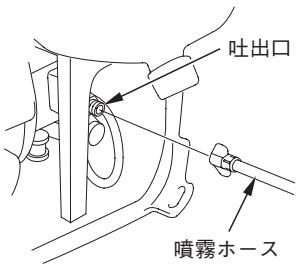


取扱いのポイント

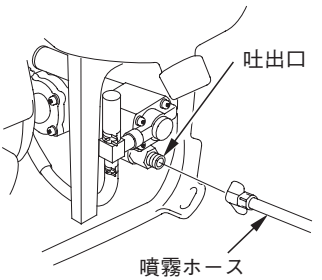
- パッキンが切れていたり、なくなったりしていないかを確認し、確実に取付けてください。
- 各接続部はしっかり締付けてください。締付けがゆるいと薬液が吹き出すことがあります。
- 噴霧ホースをポンプの吐出口へ取付ける場合は、まず手でねじ込み、次にプライヤなどで１／８回転回して確実に締付けてください。

3. 噴霧ホースをポンプの吐出口へ取付けます。

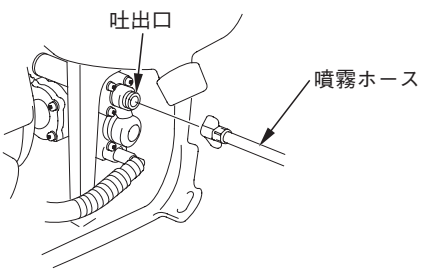
WJR1015:



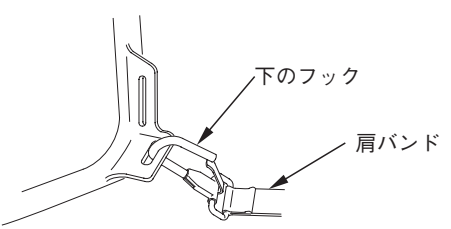
WJR1515:



WJR2520:



4. 肩バンドの下のフックを取付けます。



エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

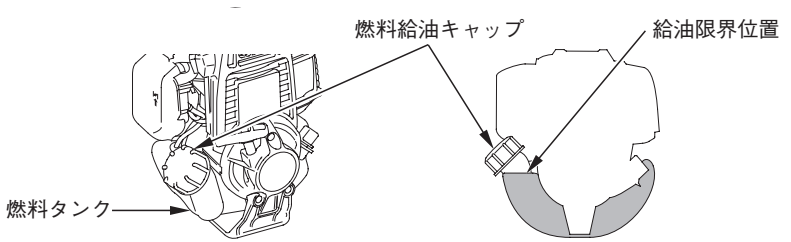
燃料の点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で補給してください。
・火気を近づけないでください。
・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれた場合は布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
・ガソリンは注入口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

点　検

燃料タンクの外側から液面の位置を確認し、燃料があるか点検します。
少ないときには図の給油限界位置を超えないように補給してください。



補　給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差と取除いてから、キャップを取外します。一気にキャップを取外すと、燃料がふき出すおそれがあります。
- 給油限界位置を超えないように補給します。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。また、給油キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

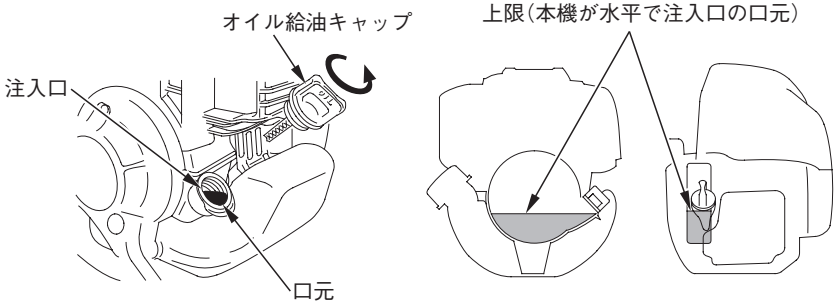
取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジン　オイルの点検

本機を水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。

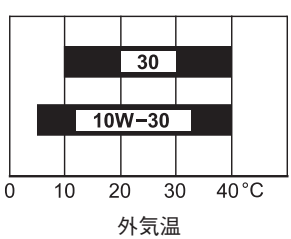
●汚れや変色の著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は、38頁参照）



推奨オイル：（4ストローク　ガソリンエンジン　オイル）
Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

エンジン　オイル量：0.08 L

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



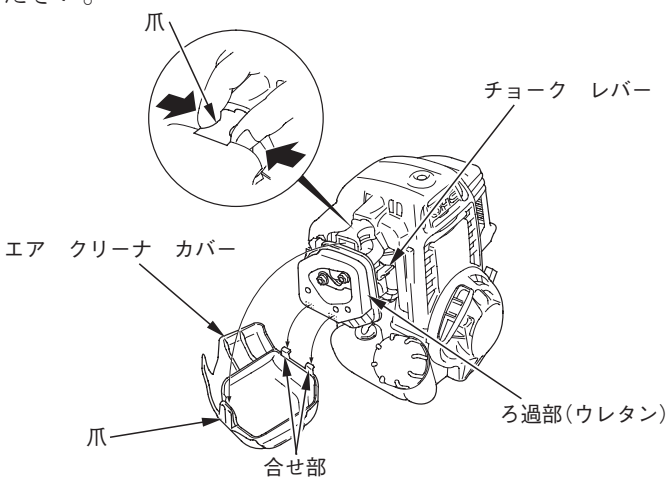
取扱いのポイント

- 本機を連続運転する場合、10時間運転毎にエンジン　オイルの点検、補給を行ってください。
- エンジン　オイルの補給はオイル容量が小さいため、小量に分け注入してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

エア　クリーナ　カバーを外して、ろ過部(ウレタン)が汚れていないか点検します。

1. チョーク　レバーを上げます。
2. エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪の両端をつまみ、手前に倒し上部を外した後、下部の合せ部を離して行ないます。
3. ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
   汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(41頁参照)
4. エア　クリーナ　カバーを取付けます。
   取付けは、下部の 2 か所の合せ部を組付けた後、上部の爪を確実に組付けてください。



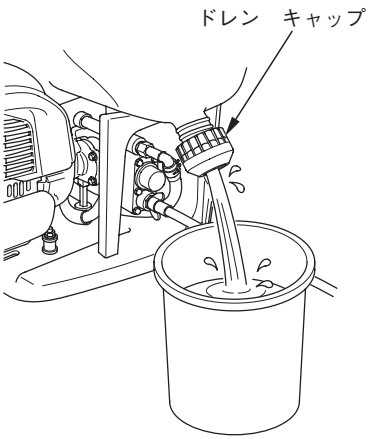
取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

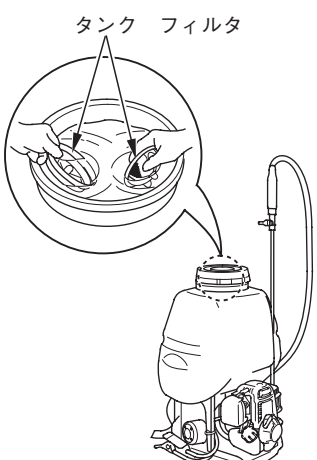
薬液タンクとタンク　フィルタの点検･清掃

薬液タンク　キャップを外して、薬液タンクとタンク　フィルタの汚れ、破損がないか点検します。

- 薬液タンクが汚れている場合は、タンク　フィルタを外して、清水でゆすぎ清掃してください。

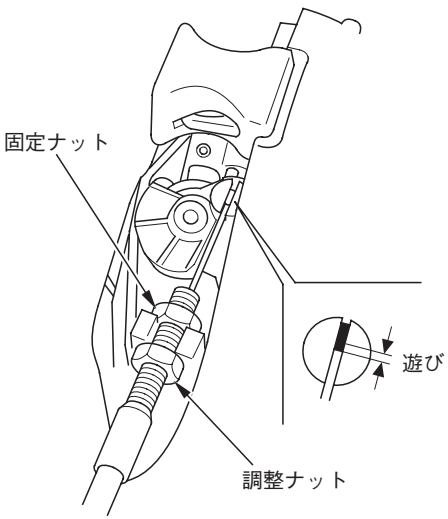


- タンク　フィルタが汚れている場合は、タンク　フィルタを外して、清水でゆすぎ清掃してください。



スロットル　ワイヤの点検

エア　クリーナ　カバーを外して、エンジン回転調整レバーを少し動かし、スロットル　ワイヤの遊びを点検します。規定値外の場合は、遊びを調整してください。(カバーの取外しは21頁、遊びの調整は48頁参照)



取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

各部の締付け点検

各部の締付けを点検してください。

薬液の入れかた

農薬など薬剤の取扱いは、薬剤の製造者および販売者の指示に従ってください。また法規および条例に従ってください。

⚠警告

- 使用する薬剤のラベル、説明書、注意事項を良く読んで、正しく使用してください。万一に備え薬剤の毒性や応急処置の方法を確認しておいてください。注意事項などを守らないと、重大な薬害事故を引き起こす原因になります。
- 薬液の注入後、薬液タンク　キャップをしっかり締めてください。薬液タンクは、必要以上に傾けたり、倒したりしないでください。薬液が吹き出すことがあります。
- ノズルを人に向けないでください。農薬などを浴びると、重大な薬害事故を引き起こします。

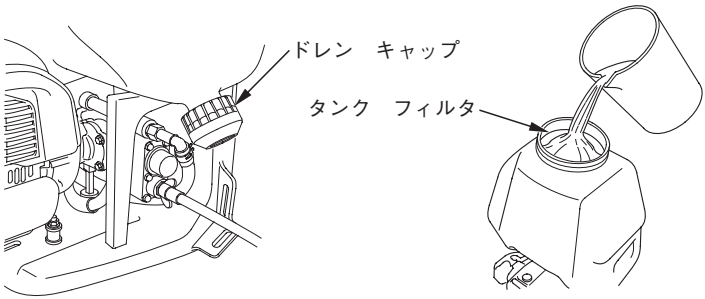
⚠注意

- 薬液タンクに農薬を入れるときは、平坦で安定した場所で、必ずエンジンを停止して行ってください。本機が倒れて薬液がこぼれたり、思わぬ時に薬液が噴出するおそれがあります。
- 水和剤を使用する場合は、あらかじめバケツなどの容器で、薬剤メーカーの取扱説明にしたがい、決められた倍率に希釈し、薬剤を混ぜたうえで、タンクに入れてください。また、水和剤は沈殿しやすいため、早めに散布を完了してください。調合倍率が間違っていると、栽培作物に薬害を生じることがあります。
  良く混合ぜずにタンクに入れると、散布濃度が不均一になり、薬害を生じる原因になります。

取扱いのポイント

- 薬液は必ず薬剤メーカーの取扱説明にしたがい、決められた倍率に調合し、よくかきまぜて溶かしてから薬液タンクに入れてください。
- 薬液タンクに薬液を入れるときは、必ずタンク　フィルタを通して入れてください。薬液に異物、ゴミが混ざるとポンプやノズルの故障の原因となります。

ドレン　キャップがしっかり締まっていることを確認してから、薬液をタンクに入れてください。



エンジンのかけかた

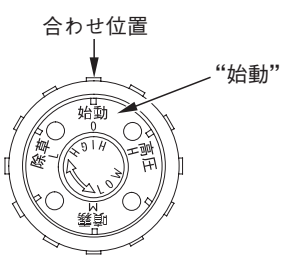
⚠警告

- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- エンジン　カバーを外した状態で始動グリップを引いたり、エンジンを始動しないでください。高温部および回転部が露出するので、思わぬ事故の原因となります。

取扱いのポイント

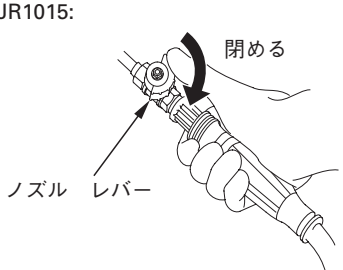
空運転はしないでください。タンクには1 L以上液を入れてください。
空運転を避けるため、噴霧中、ノズルから液が出なくなったらすぐに、エンジン回転を低速にし、アイドリングにするか、エンジンを停止してください。
タンク内の薬液が1 L以下では、ポンプが空気を吸い、作業できなくなります。空運転を続けると、ポンプが破損することがあります。

1. (WJR2520)
調圧ダイヤルを始動の位置にします。

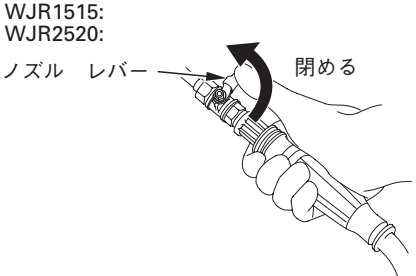


2. ノズル　レバーを閉めます。

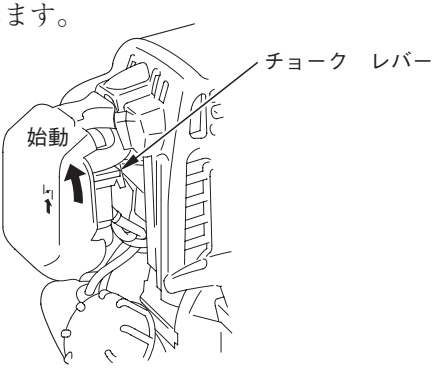
WJR1015:



WJR1515:
WJR2520:



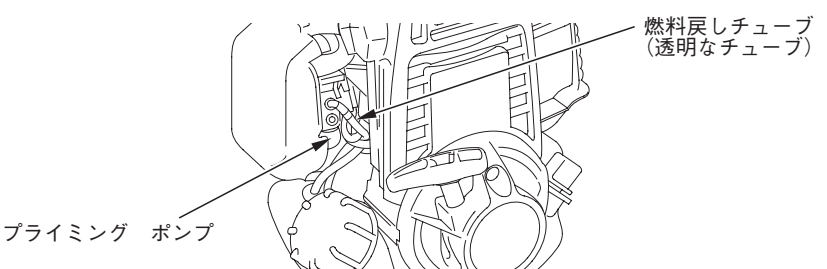
3. 寒いときやエンジンがかかりにくい場合には、チョーク　レバーを始動の位置にします。
   - エンジンが暖まっているときは、チョーク　レバーを下げた位置（運転の位置）で始動します。



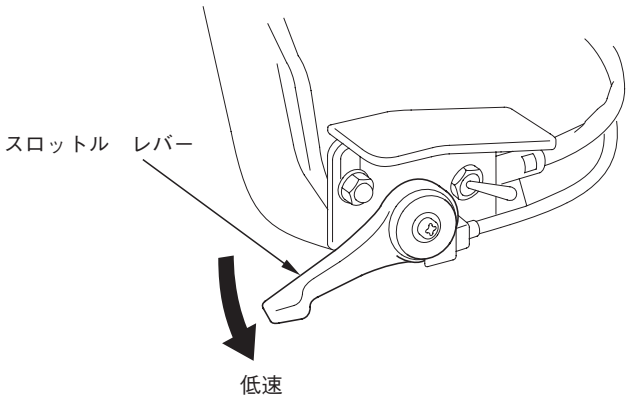
4. 燃料戻しチューブ（透明なチューブ）の内側で燃料が移動するまでプライミング　ポンプを押します。

取扱いのポイント

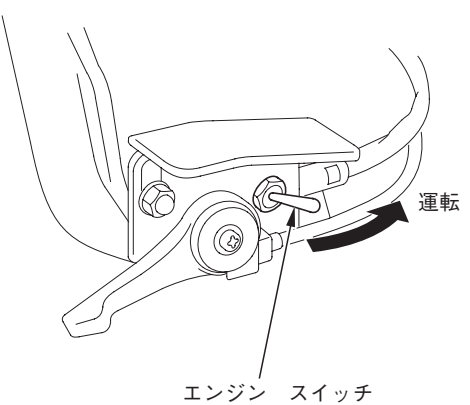
- プライミング　ポンプを押しすぎても余分な燃料は燃料タンクに戻ります。
  押す回数が少ないと始動不良の原因になりますので、十分に押してください。
- プライミング　ポンプを押して燃料が移動した後は、エンジンが始動するまでスロットル　レバーを操作しないでください。始動グリップを引く回数が増えたり、始動しにくくなることがあります。



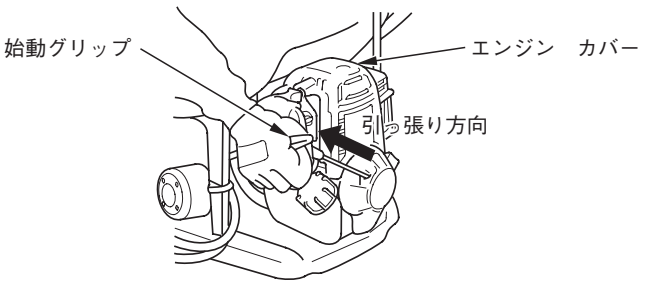
5. スロットル　レバーを低速の位置にします。



6. エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にします。



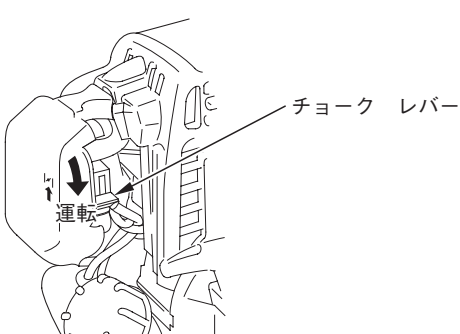
7. エンジン　カバーをしっかり押さえながら、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。
   - 始動グリップを引く前に、後方に人が居ないことを確認してください。



取扱いのポイント

- 周囲に人がいないことを確認した上で始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- 始動グリップを引き上げた位置から手を放さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

8. チョーク　レバーを始動にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に運転の方向に戻します。



エンジンがかかりにくいときは

運転後、エンジンを止めてしばらくたった後に再始動しようとすると、燃焼室内の混合気が濃くなり、エンジンがかかりにくくなることがあります。

次の１～４の操作を行って濃い混合気を排出してください。

1. エンジン　スイッチを**“停止”**の位置にします。
2. チョーク　レバーを下げ**“運転”**の位置にします。
3. スロットル　レバーを上げ高速の位置にして、始動グリップを３～５回引きます。
4. スロットル　レバーを下げ低速の位置にします。

⚠警告

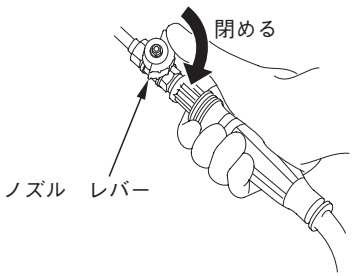
エンジン　スイッチは必ず“停止”の位置にしてください。“運転”の位置で行うと、エンジンが始動する可能性があります。エンジンが始動した場合、ノズル　レバーが開いていると薬剤が噴霧され、思わぬ薬害のおそれがあります。

- 「エンジンのかけかた」(26頁参照)の手順に従って、エンジンを始動してください。
- チョーク　レバーは下げ、**“運転”**の位置で始動してください。

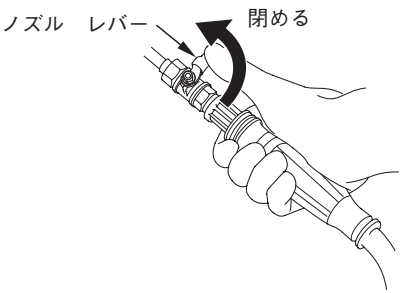
エンジンのとめかた

1. ノズル　レバーを閉めます。

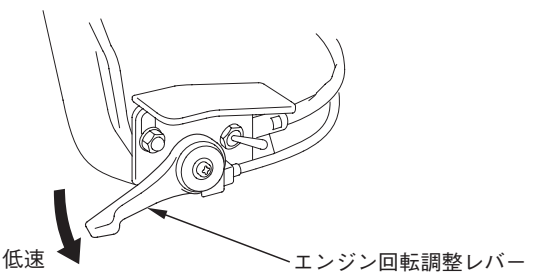
WJR1015:



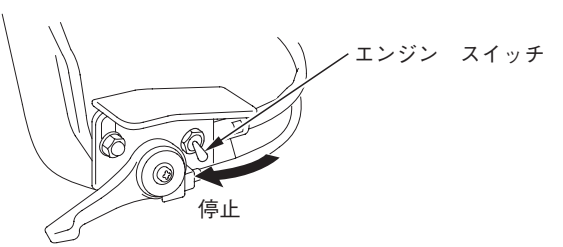
WJR1515:
WJR2520:



2. エンジン回転調整レバーでエンジン回転を最低速にします。



3. エンジン　スイッチを**“停止”**の位置にします。

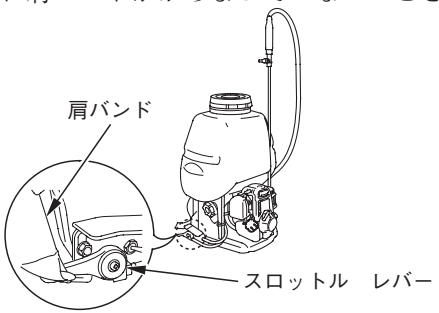


緊急の場合

- 緊急時は、直ちにエンジン　スイッチを**“停止”**位置にしてエンジンを止めてください。

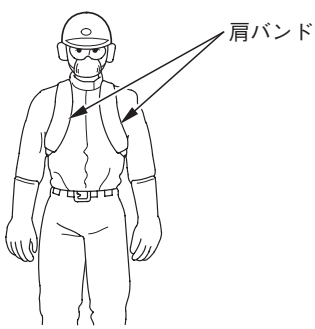
運転操作のしかた

1. エンジンを始動します。(エンジンの始動方法は26頁参照)
2. スロットル　レバーを低速の位置にします。
3. スロットル　レバーに肩バンドがからまっていないことを確認します。



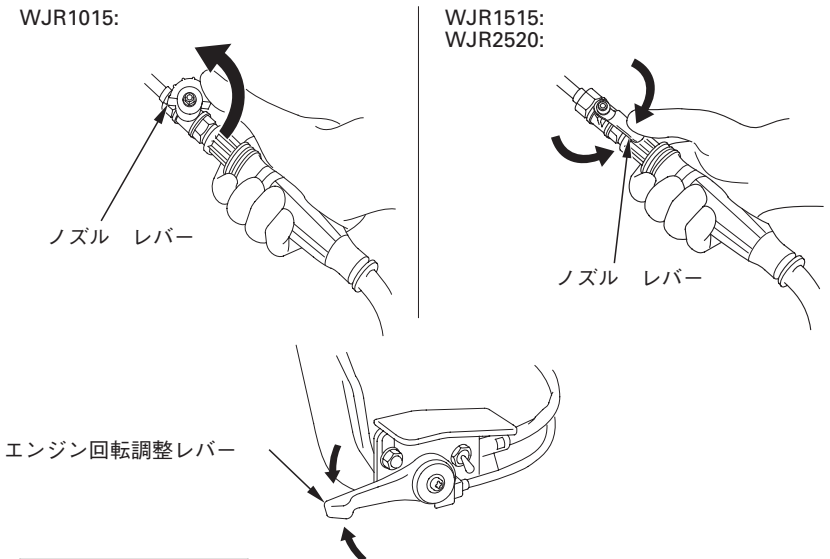
4. 本機をいったん台に置いてから背負います。

●左右の肩バンドに腕を通して本機を背負います。



●本機が背中にぴったりつくように肩バンドの長さを調節します。

5. ノズル　レバーを開き、エンジン回転調整レバーを操作して、噴霧状態を見ながら圧力を調節します。

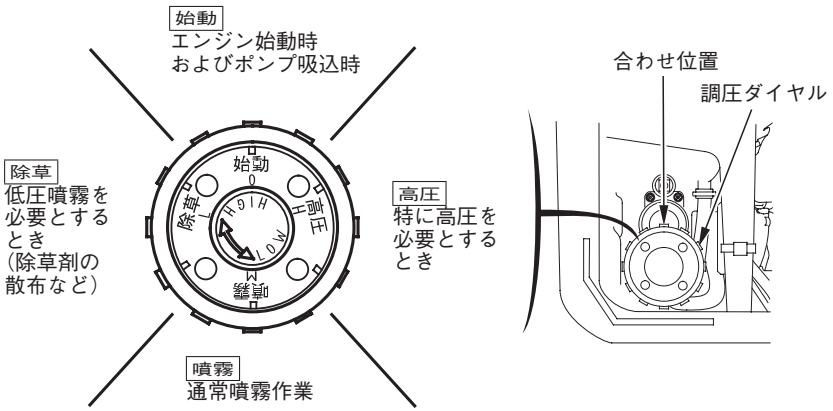


取扱いのポイント

- エンジンは全開で7,000 rpmになるように、エンジン回転調整レバーがストッパーで調整されてます。ストッパーの位置をかえて無理な高速回転をさせないでください。無理な高速回転はポンプの効率を低下させ、エンジンとポンプに悪影響をあたえます。
- (WJR1515/WJR2520)
  本機には、遠心クラッチが採用されていますので、エンジンが低速回転中はポンプが回りません。クラッチのすべっている回転域でのご使用はお避けください。クラッチが破損することがあります。

6. (WJR2520)

噴霧圧力／噴霧量を調整したいとき、調圧ダイヤルを回して圧力を調整します。



散布作業

⚠警告

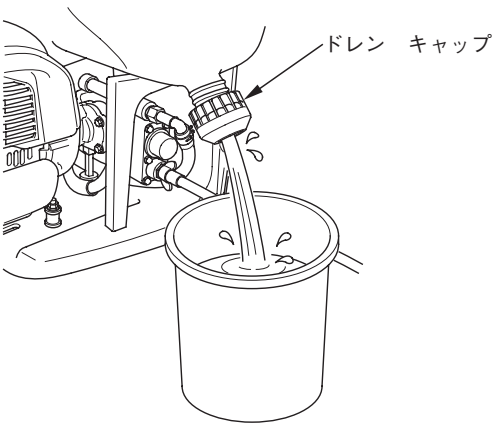
- 薬剤が皮膚についたときは、すぐに石鹸水で洗い、衣服に浸透しているときは、衣服を交換してください。
- 作業後・作業中に少しでも、めまい、頭痛、吐き気、腹痛などを感じたときは、直ちに、医師の診断を受けてください。このとき、使用農薬名と散布作業の内容(作業時間、作業面積、作業方法など)を医師に報告してください。
  早急な手当てを受けないと、重大な薬害事故となります。
- 農薬散布時は、ノズルを人の方向に向けないでください。子供、その他関係者以外の人が、作業する場所に近付いたときには作業を中止してください。
- 散布作業時は風向きを確かめ、体を風上において、薬剤が体にかからないようにします。
  また、風下から風上方向に作業を進め、散布済みの場所で、作物に付着した薬剤が体に触れないようにします。
  薬剤を吸ったり、触れたりすると、健康に悪影響を及ぼします。

取扱いのポイント

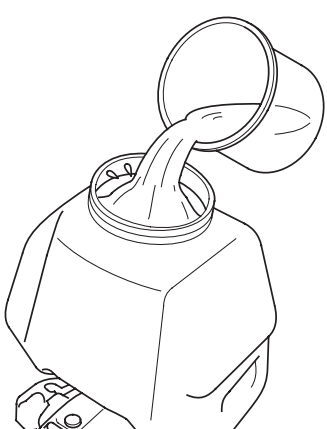
噴霧がとぎれたり、勢いがなくなったり、エンジン回転が急に高くなったりしたときは、薬液タンクが空になっています。ノズル　レバーを閉め、エンジン回転調整レバーでエンジンの回転を下げ、エンジン　スイッチを切にし、エンジンを停止して、薬液を補給してください。

使い終わったら

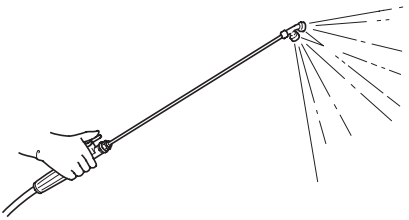
1. ノズル　レバーを閉め、エンジン回転調整レバーでエンジンの回転を徐々に下げ、アイドリングでしばらく冷却運転を行った後、エンジン　スイッチを**“停止”**の位置にします。
2. エンジン冷却後、ドレン　キャップをゆるめ、薬液タンク内に残った薬液を排出します。



3. ドレン　キャップを締付けます。薬液タンク　キャップを外して、タンク内に清水を入れ、洗浄します。



4. エンジンを再始動します。ノズル　レバーを３～４回開閉して、２～３分間噴霧します。洗浄が終わったら、エンジンを停止し、ドレンキャップを外して洗浄水を排出します。



⚠注意

- 作業終了後の洗浄は、必ず行ってください。
  機具を良く洗浄せず、別種の薬剤を使用すると、ポンプやホース内に残っていた前の薬液と混じり合って、薬害を引き起こします。
- タンク内に残った薬液や、洗浄に使った水は、薬剤の製造者および販売者の指示に従い処理してください。
  決して川や、池などに流したり、川や池の付近に捨てたりしないでください。川や池の近くに洗浄水を捨てると、水生動植物などに薬害を生じます。

取扱いのポイント

洗浄後、ポンプから噴霧ホースを外し、吐出口から水が出なくなるまで運転して、完全にポンプ内の水を抜いてください。ポンプ内に水分が残っていると、凍結した場合にポンプを破損することがあります。

定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHonda背負式動力噴霧機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を受けましょう。

定期点検整備項目

点検項目 ＼ 点検時期(1)		作業前点検	1か月目または初回10時間運転目	3か月毎または25時間運転毎	6か月毎または50時間運転毎	1年毎または100時間運転毎	2年毎または300時間運転毎
エンジン　オイル	点検	○					
	交換		○		○		
エア　クリーナ	点検	○					
	清掃			○(2)			
点火プラグ	点検、調整					○	
	交換						○
冷却フィン	点検、清掃				○		
各部締め付け	点検	○					
アイドリング回転	点検、調整					○(3)	
吸入、排気弁のすき間	点検、調整					○(3)	
燃焼室	清掃	300時間運転毎　(3)(4)					
燃料フィルタ	清掃					○	
燃料タンク	清掃					○	
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(3)					
スロットル　ケーブル	点検	○					
クラッチシュー、ドラム	点検				○(3)		
オイルチューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(3)					
薬剤タンク、フィルタ	点検、清掃	○					

(1)　点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(2)　ホコリの多い所で使用した場合は、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

(3)　適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施していただく項目です。

(4)　表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告
- 点検・整備は平坦な場所に本機を水平に置き、エンジンを止めて行ってください。
- エンジン　カバーを外した状態で始動グリップを引いたり、エンジンを始動しないでください。高温部および回転部が露出するので、思わぬ事故の原因となります。

エンジン　オイルの交換

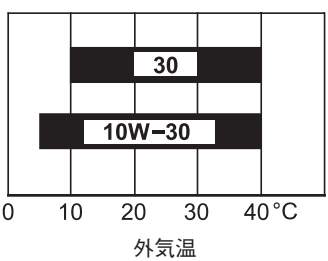
エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

《交換時期》
初回：1か月目または10時間運転目
以後：6か月毎または50時間運転毎

《推奨オイル》(4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル)
Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

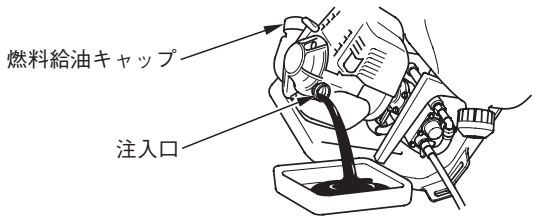
エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



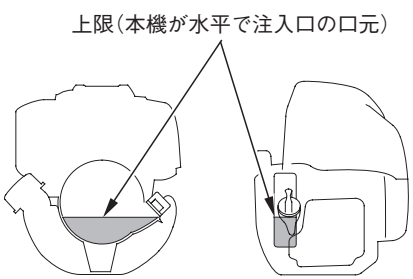
《規定量》 0.08 L

《交換のしかた》

1. 燃料給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. オイル給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、オイルを抜きます。オイルは、容器に受けてください。



3. 本機を水平にし、エンジンオイルを注入口の口元まで注入します。



4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

取扱いのポイント

- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上処理してください。
- エンジン　オイルの補給はオイル容量が小さいため、小量に分け注入してください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア　クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

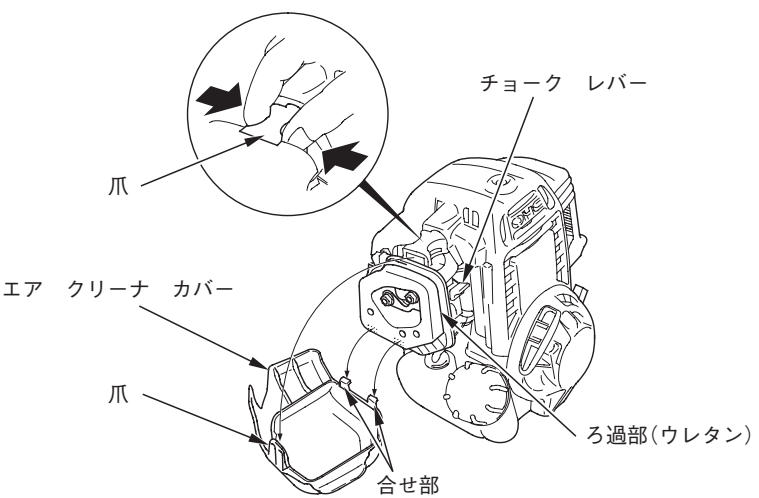
⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》　3か月毎または25時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は10時間毎または1日1回。

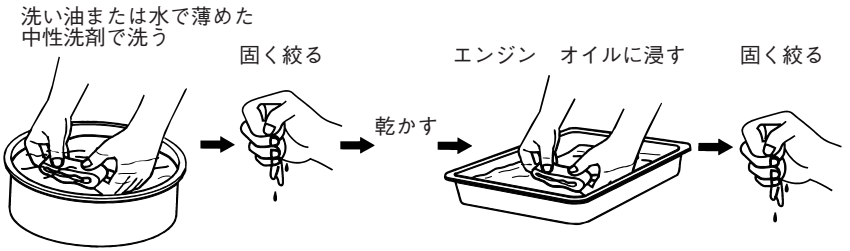
《清掃のしかた》

1. チョーク　レバーを上げます。



2. エア　クリーナ　カバーを取外し、ろ過部(ウレタン)を取外します。
   エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪の両端をつまみ、手前に倒し上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。
3. ろ過部を洗い油または水で薄めた中性洗剤でよく洗い、よく絞ってから乾かします。

4. ろ過部をエンジン　オイルに浸した後、固く絞ります。
5. ろ過部、エア　クリーナ　カバーを取付けます。エア　クリーナ　カバーの取付けは、2 か所の合せ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。



取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検･調整･交換

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行ってください。

《点検･調整時期》

1年毎または100時間運転毎

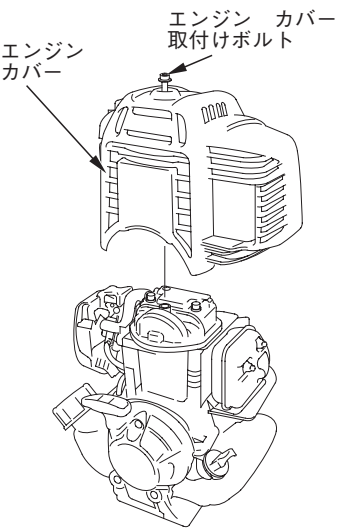
《交換時期》

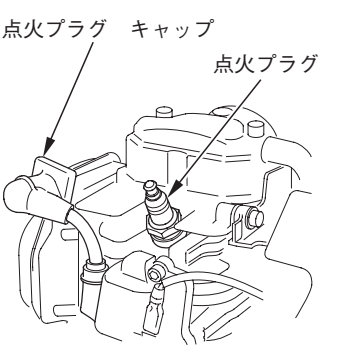
2年毎または300時間運転毎

《清掃のしかた》

1. エンジン　カバー取付けボルトをゆるめ、エンジン　カバーを取外します。
2. 点火プラグ　キャップを外し、点火プラグを取外します。
3. プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

● プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。





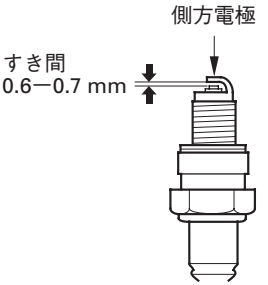
《調　整》

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.6－0.7 mm

《標準プラグ》

CM4H (NGK)



取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
  点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締込んでください。
- 点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付けてください。
  確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

燃料タンクの清掃

燃料タンク内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

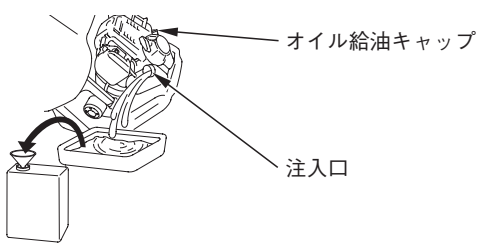
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《清掃時期》

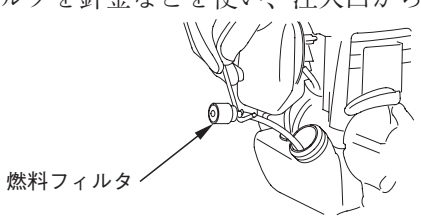
1年毎または100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、燃料を抜きます。
   燃料は容器に受けてください。



3. 燃料フィルタを針金などを使い、注入口から引き出します。



4. 燃料タンク内部を洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
5. 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。

燃料フィルタの清掃

燃料フィルタが目詰まりするとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

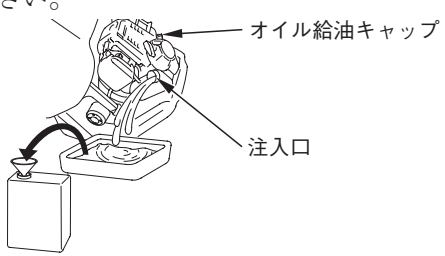
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《清掃時期》

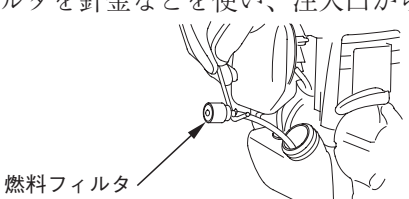
1年毎または100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。
2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、燃料を抜きます。
   燃料は容器に受けてください。



3. 燃料フィルタを針金などを使い、注入口から引き出します。



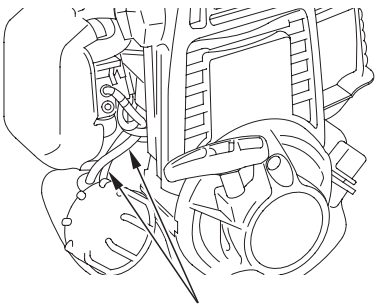
4. 燃料フィルタを洗い油で洗い、燃料フィルタ表面の汚れを落とします。
   燃料フィルタの汚れが著しい場合は、交換してください。
5. 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料給油キャップを確実に締付けます。

燃料チューブの点検

《点検時期》　2年毎

《点検のしかた》

燃料チューブに劣化、ひび割れ、燃料漏れがないことを確認します。
異常がある場合は交換が必要です。
お買いあげの販売店で実施してください。

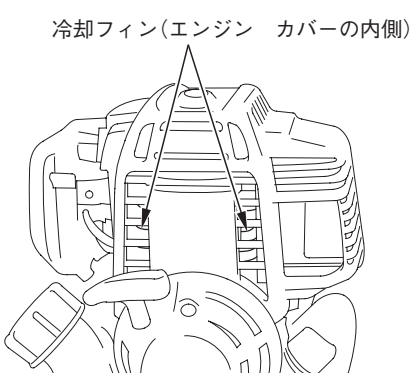


冷却フィンの点検・清掃

《点検時期》　6か月毎または50時間運転毎

《点検のしかた》

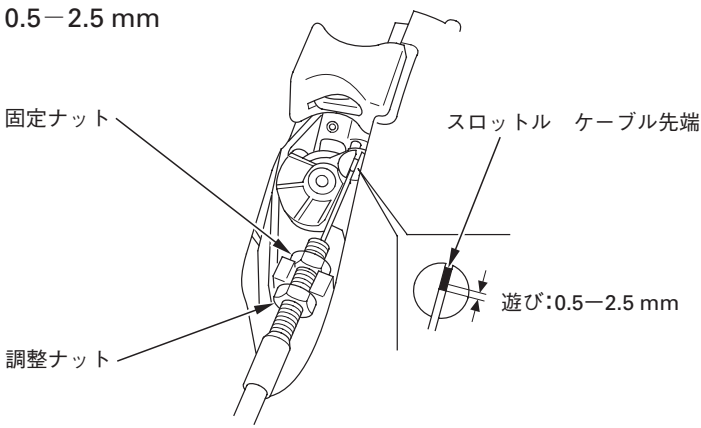
冷却フィンを目視で点検し、草、芝、泥などによる詰まりがないことを確認します。
詰まりがある場合は清掃してください。清掃はお買いあげの販売店にご相談ください。



スロットル　ケーブルの調整

スロットル　ケーブルの遊びを正しく調整してください。

1. チョーク　レバーを上げ、エア　クリーナ　カバーを取外します。
   エア　クリーナ　カバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合せ部を離して行います。
2. エンジン回転調整レバーを**“低”**の位置に合わせます。
3. スロットル　ケーブルの固定ナットをゆるめます。
4. スロットル　ケーブル先端の遊びを確認しながら、調整ナットを回して遊びを規定値にします。
   遊び：0.5－2.5 mm



5. エア　クリーナ　カバーを取付けます。
   調整後、エンジン回転調整レバーがスムーズに作動するか、引っかかりはないか確認してください。異常がある場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

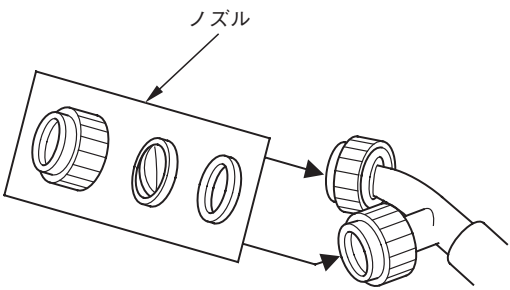
取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

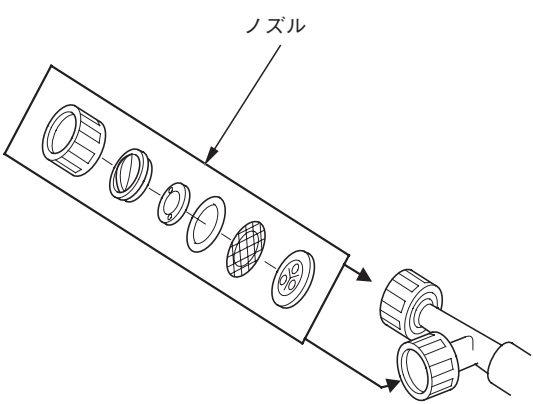
ノズルの分解・点検

噴霧の状態が悪いときはノズルを分解して点検してください。汚れ、詰まりがある場合は清掃してください。破損がある場合はお買いあげ販売店にご連絡ください。

WJR2520:



WJR1015:
WJR1515:



長期間使用しないときの手入れ

★長時間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

⚠警告

手入れを行う場合は、平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外してください。

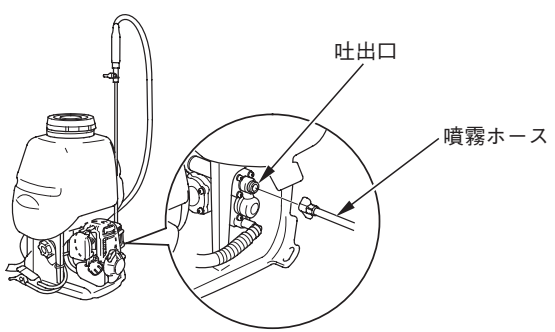
⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

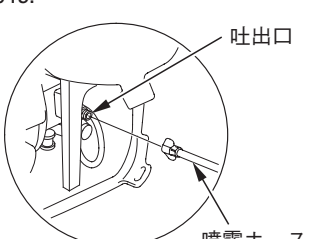
凍結の防止

1.「使い終わったら」の作業を行います。(36頁参照)
2. 本機の吐出口から噴霧ホースを取外します。

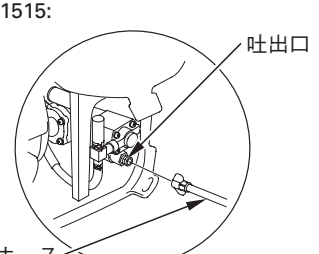
WJR2520:



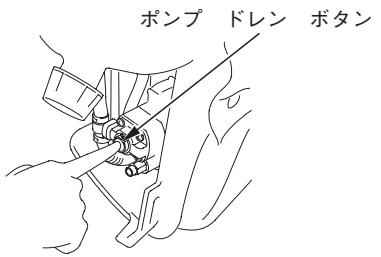
WJR1015:



WJR1515:



3. (WJR1015)
ポンプ　ドレン　ボタンを10秒間押し続けます。
4. エンジンを始動させます。
5. スロットル　レバーを高速と低速の中間位置にして、10秒間エンジンを運転します。
6. エンジンを停止させます。
7. 噴霧ホースを取付けます。



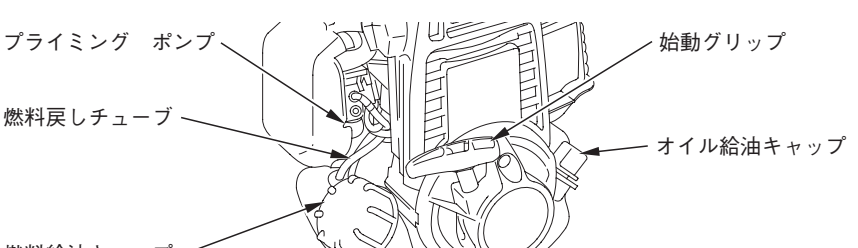
手入れの方法

1本機の表面から、薬剤やゴミなどの付着物を取除いてください。
2燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜いてください。
次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。

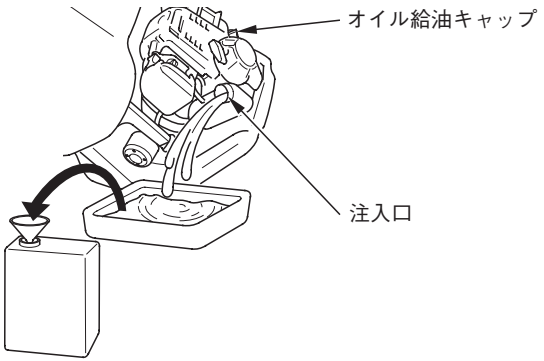
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

《抜きかた》
1. エンジン　オイル給油キャップが締付けられていることを確認します。



2. 燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、燃料を抜きます。
燃料は容器に受けてください。



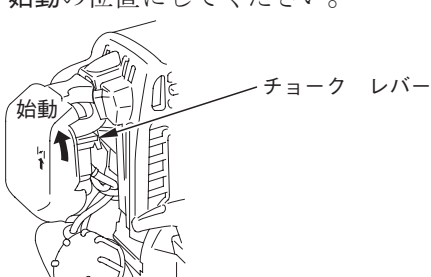
3. 燃料給油キャップを取付けます。
4. 燃料戻しチューブ(透明なチューブ)内の燃料がなくなるまで、プライミング　ポンプを押します。
5. 再度、燃料給油キャップを外し、本機を注入口側に傾け、燃料を抜きます。燃料は容器に受けてください。
6. 燃料給油キャップを確実に締付けます。

3 エンジン　オイルを交換してください。(交換方法は39頁参照)

4 エア　クリーナ(空気清浄器)を清掃してください。(清掃方法は41頁参照)

5 始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。

6 チョーク　レバーを上げ、**始動**の位置にしてください。



7 保管は、子供や家畜の出入りできない、鍵のかかる場所にしてください。また、火の気のない、湿気やホコリの少ない場所を選んでシート等をかけて保管してください。

故障のときは

まずご自分で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときには、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?（26～30頁参照）
2. 燃料はありますか?　　（18、19頁参照）
3. 点火プラグ　キャップは確実に取付けられていますか?（43頁参照）
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか?（43頁参照）
   ・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確めましょう。

ポンプが吸水しないときは次の点を確認しましょう。

- ノズル、ノズル　パイプ、調圧ダイヤル（WJR2520のみ）、ノズルレバー、噴霧ホースの接続は確実ですか?（16頁参照）
- エンジンの回転が低すぎませんか?（33頁参照）

圧力が上がらない

- ノズルのつまり、ノズルの穴の損傷はありませんか?（49頁参照）

主要諸元

機種名		WJR1015	WJR1515	WJR2520
型式		WAHJ	WAJJ	WALJ
全長×全幅×全高		380 × 430 × 620 mm	390 × 430 × 620 mm	390 × 470 × 620 mm
乾燥質量（重量）		7.6 kg	9.0 kg	9.4 kg
薬剤タンク容量		15 L	15 L	20 L
燃料タンク容量		0.58 L	0.58 L	0.58 L
ポンプ	形式	渦流ポンプ	横型ピストン（シングル）	横型対抗2連ピストン
	動力伝達方式	直結	遠心クラッチ	遠心クラッチ
	締切り圧力	1.0 MPa (7,000 rpm時)	1.5 MPa (7,000 rpm時)	2.5 MPa (6,300 rpm時)
	吸水量	1.5—7.0 L/min (4,000—7,000 rpm時)	5.2 L/min (7,000 rpm時)	7.1 L/min (6,300 rpm時)
	調圧装置	—	—	ダイヤル式
ノズル	コック形式	フィンガーコック	ボールコック	ボールコック
	付属ノズル	2 頭口	2 頭口	2 頭口
	噴霧量	2.2 L/min (6,600—7,200 rpm時)	2.7 L/min (6,600 ± 300 rpm時)	3.8 L/min (6,300 rpm時)
エンジン	名称	GX25T		
	形式	4 ストローク　単気筒　OHC		
	排気量	25.0 cm^3		
	エンジン最大出力／回転速度（SAE J1349に準拠＊）	0.72 kW (1.0 PS)/7,000 rpm		
	エンジン最大トルク／回転速度（SAE J1349に準拠＊）	1.0 N·m (0.10 kgf·m)/5,000 rpm		
	冷却方式	強制空冷		
	点火方式	トランジスタ　マグネト点火		
	点火プラグ	CM4H (NGK)		

＊：ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して7,000rpm（エンジン最大出力）、5,000rpm（エンジン最大トルク）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わることがあります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名